

## 静岡県中央新幹線環境保全連絡会議生活環境部会 荒井 歩 委員意見

- ・ J R 東海が実施した景観に関する環境影響評価について、内容は適切であると判断する。
- ・ 6 箇所（箇所の盛土のうち、ツバクロについては、中景に介在する盛土として視認される。しかし盛土が山並み等のスカイラインを切断していない。またのり面等の緑化植栽を行うことで、周囲の山林に溶け込んだ景観になることが予測でき、景観上の支障はないと判断できる。
- ・ 中ノ宿 3 については、近景に介在する盛土として視認される。しかし盛土が山並み等のスカイラインを切断していない。またのり面等の緑化植栽を行うことで、周囲の山林に溶け込んだ景観になることが予測でき、景観上の支障はないと判断できる。
- ・ 中ノ宿 2 については、環境影響評価でのフォトモンタージュ法を用いた予測における眺望点は主に展望台であり、知事意見で中ノ宿吊橋を眺望点と捉えてフォトモンタージュ法を用いた予測を求めていることは妥当である。盛土は近景として視認されるが、盛土の規模は高さ約 20m、面積約 0.8ha で、緑化についてはのり面造成が完了した箇所から段階的に行うことで早期に実施するとのことであり、景観上の支障はないと判断できる。
- ・ 他の 3 箇所（イタドリ、藤島、荊石）については、林道や登山道から見下ろす位置にあり、スカイラインを切断するものではないため、フォトモンタージュを実施しなくても問題はないと考える。
- ・ 緑化については、木本の植栽だけでなく埋土種子を活用した草本植生の早期回復も図っており、評価できる。
- ・ 工事中の景観対策も重要であり、J R 東海が計画するようにフェンスや仮囲いはアースカラーを採用していただきたい。
- ・ 工事後のモニタリングについては必要だが、景観だけで実施する必要はなく、頻度は盛土の点検と合わせればよい。自然地の景観は生態系や環境に密接に関係しているため、植生の生育状況に問題がなければ、景観上の問題もないと考えられる。